

PRIMARY

変額個人年金保険（災害死亡10%型） [プライマリー]

特別勘定運用レポート (組入投資信託の運用状況)

特別勘定の名称	投資信託の名称	投資信託の運用会社	ページ
日本株式インデックス1型	日本株式インデックスファンドVA	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	1
日本株式アクティブ1型	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA1	フィデリティ投信株式会社	2
日本株式アクティブ2型	ダイワ・バリュー株・オープンVA2	大和アセットマネジメント株式会社	3
外国株式インデックス1型	外国株式インデックスファンドVA	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	4
外国株式アクティブ1型	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グ ロース・オポチュニティーズ-1	アライアンス・バーンスタイン株式会社	5
外国債券インデックス1型	外国債券インデックスファンドVA	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	6
外国債券アクティブ1型	ベアリング外国債券ファンドVA2	ベアリングス・ジャパン株式会社	7
外国債券アクティブ3型	グローバル・ソブリン・オープンVA2	三菱UFJアセットマネジメント株式会社	8
バランス1型	バランスVA50	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	9
短期資金1型	フィデリティ・マネー・プールVA	フィデリティ投信株式会社	10

三井住友海上プライマリー生命

MS&AD INSURANCE GROUP

特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって

当資料をご覧ください際にご留意いただきたい事項

- ・当資料は既に当商品にご加入されたご契約者に対し、三井住友海上プライマリー生命の PRIMARY〔変額個人年金保険（災害死亡 10%型）〕の特別勘定および特別勘定が主たる投資対象とする投資信託の運用状況を開示するためのものです。なお、商品の詳細につきましては、商品パンフレット、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をご覧ください。
- ・当資料に記載されている運用実績等に関する情報は過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、[組入投資信託の運用状況]に記載されているコメント等は当資料作成時点の見解に基づくものであり、予告なく変更されることがあります。
- ・[組入投資信託の運用状況]は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上プライマリー生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上プライマリー生命の責めによるものを除き、三井住友海上プライマリー生命は一切の責任を負いません。

この保険商品についてご確認ください事項

■市場リスクについて

この保険は、払込みいただいた保険料を投資信託等を投資対象としている特別勘定で運用し、その運用実績に基づいて将来の死亡保険金額、解約払戻金額、および年金額等が変動（増減）するしくみの生命保険商品です。特別勘定の資産は、主に国内外の株式・債券等に投資する投資信託を通じて運用されるため、株価や債券価格の下落、為替の変動等により、解約払戻金等のお受取りになる合計額が払込まれた保険料を下回る可能性があり、損失が生じるおそれがあります。これらの特別勘定の運用に伴うリスクはすべてご契約者に帰属します。

■ご負担いただく費用について

この保険では、保険関係費および資産運用関係費等をご負担いただきます。また、一定期間内にご契約を解約・一部解約する場合には、所定の解約控除がかかります。詳しくは次ページ「諸費用について」をご参照ください。

■その他

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

諸費用について

この保険の費用の合計は、以下の費用の合計額となります。

積立期間中にご負担いただく費用

1. すべてのご契約者にご負担いただく費用

下記の費用を控除した上で、ユニットプライスは計算されます。

項目	目的	費用	時期
保険関係費	当保険契約の締結および維持などに必要な費用ならびに死亡保険金・災害死亡保険金等を支払うための費用	積立金額に対して年率 1.95%	積立金額に対して左記の年率の 1/365 を乗じた金額を毎日控除します。
資産運用関係費	投資信託の信託報酬など、特別勘定の運用にかかわる費用	特別勘定ごとに異なります。詳しくは下記をご覧ください。	各特別勘定の資産残高に対して所定の年率の 1/365 を乗じた金額を毎日控除します。

特別勘定の名称	資産運用関係費 (消費税込 年率)	特別勘定の名称	資産運用関係費 (消費税込 年率)	特別勘定の名称	資産運用関係費 (消費税込 年率)
日本株式インデックス1型	0.495%程度*1	外国株式アクティブ1型	0.902%程度	バランス1型*3	0.539%程度*1
日本株式アクティブ1型	1.133%程度	外国債券インデックス1型	0.583%程度	短期資金1型	0.00935%~ 0.55%程度*4
日本株式アクティブ2型	1.309%程度	外国債券アクティブ1型	0.748%程度		
外国株式インデックス1型	0.66%程度	外国債券アクティブ3型*2	0.935%程度		

- * 1 投資信託とそのマザーファンドにおいて有価証券の貸付の指図を行った場合は、投資信託の品賃料およびマザーファンドの品賃料のうち投資信託の信託財産に属するとみなした額に50%未満の率を乗じて得た額を信託報酬として、各特別勘定の資産残高から控除します。
・品賃料は投資信託の収益として計上され、その一部を信託報酬として受取るものです。
- * 2 2003年7月1日より追加設定されました。 * 3 2004年7月1日より追加設定されました。
- * 4 前月の最終営業日を除く最終5営業日間における無担保コール翌日物レートの平均値に応じた率を用いて各月ごとに決定するため、上限と下限のみを記載しております。



ご注意

- ・資産運用関係費は信託報酬に記載しています。その他、信託財産留保額、有価証券の売買手数料、運用関連の税金、監査費用等がかかる場合がありますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。これらの費用は特別勘定がその保有資産から負担するため、特別勘定のユニットプライスに反映されることとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。
- ・資産運用関係費は、運用手法の変更、運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

2. 下記のお取扱いの場合に別途ご負担いただく費用

特別勘定のユニットプライスを計算した後に特定の契約者にご負担いただきます。

項目	費用	時期
契約維持費	積立金が200万円未満のとき 毎月400円	月ごとの契約応当日に積立金から控除します。
積立金 移転手数料	1保険年度に15回目までは無料 1保険年度16回目以後の 移転について2,500円/回	移転時に積立金から控除します。
貸付利息	契約者貸付を受けるとき 貸付金額に対して年率 1.95%	年ごとの契約応当日に積立金から控除します。
解約控除	解約するとき 経過年数に応じて、 払込保険料総額に対して1~7%	解約時・一部解約時に積立金から控除します。
	一部解約するとき 経過年数に応じて、 一部解約請求金額に対して1~7%	

* 一部解約請求金額が払込保険料総額を上回る場合には、解約控除対象額は払込保険料総額を上限とします。一部解約の際に解約控除対象額として扱われた金額については、以後の解約控除対象額の計算の対象とする払込保険料総額から控除して取扱います。

* 契約日(増額日)から10年未満で一般勘定で運用する定額年金へ変更した場合には、契約日(増額日)からの経過年数に応じた解約控除がかかります。

<解約控除率>

契約日(増額日)からの経過年数	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上 5年未満	5年以上 6年未満	6年以上 7年未満	7年以上 8年未満	8年以上 9年未満	9年以上 10年未満	10年以上
解約控除対象額に対する解約控除率	7%	7%	6%	6%	5%	5%	4%	3%	2%	1%	0%

年金支払期間中にご負担いただく費用

下記の年金管理費を年金支払開始日以後ご負担いただきます。(遺族年金支払特約による年金も含まれます。)

項目	費用	時期
年金管理費	年金額に対して1%	年金支払開始日以後、年金支払日に責任準備金から控除します。

* 上記費用は上限です。なお、年金支払開始日時点の費用を年金支払期間を通じて適用します。

ファンド名：日本株式インデックスファンドVA

作成基準日：2026年2月27日

ファンドの特色

● 運用方針

- わが国の金融商品取引所等に上場している株式に分散投資を行い、「TOPIX」（東証株価指数）（配当込み）と連動する投資成果を目標として運用を行います。
- 株式の実質組入比率は、原則として高位（90%以上）を保ちます。ただし、資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記のような運用が行われない場合もあります。
- ファミリーファンド方式で運用します。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（日本株式インデックスファンドVA）とし、その資金をマザーファンド（日本株式マザーファンド）に投資して、実質的な運用はマザーファンドで行う仕組みです。

● 投資対象等

- わが国の金融商品取引所に上場している株式に投資する「日本株式マザーファンド」
- ベンチマーク「TOPIX」（東証株価指数）（配当込み）

(注)TOPIX（東証株価指数）とは、株式会社JPX総研が算出、公表する指数で、日本の株式市場を広く網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。

TOPIX（東証株価指数）（配当込み）（以下、「配当込みTOPIX」という。）の指数値及び配当込みTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など配当込みTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及び配当込みTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、配当込みTOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

信託財産（マザーファンド）の構成

● 資産構成比

株式	比率	100.0%
うち現物株式		99.1%
うち先物株式		0.9%
コール・その他		0.9%

※対純資産総額比

● 組入銘柄数 1,639銘柄

組入上位10業種（マザーファンド）

	業種 ^{※1}	比率 ^{※2}	TOPIX構成比
1	電気機器	18.14%	18.14%
2	銀行業	10.85%	10.84%
3	卸売業	8.53%	8.53%
4	機械	6.77%	6.77%
5	輸送用機器	6.74%	6.74%
6	情報・通信業	5.73%	5.74%
7	化学	4.66%	4.66%
8	小売業	4.11%	4.11%
9	医薬品	3.72%	3.74%
10	保険業	3.18%	3.18%

※1 東証33業種ベース ※2 対現物株式評価額比

設定・運用は、三井住友トラスト・アセットマネジメント (<https://www.smtam.jp/>)

ファンドの状況

● 基準価額等		前月末比
基準価額	61,288円	+5,784円
解約価額	61,288円	+5,784円
純資産総額	2,204百万円	+303百万円

(注)純資産総額は百万円未満四捨五入

● 資産構成

日本株式マザーファンドに100%投資

基準価額の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
ファンド	10.42%	16.62%	29.18%	49.70%	109.15%	131.98%	263.92%	517.54%
ベンチマーク	10.47%	16.77%	29.52%	50.49%	112.51%	138.36%	283.69%	590.32%
超過収益率	-0.05%	-0.15%	-0.34%	-0.79%	-3.36%	-6.37%	-19.77%	-72.78%

※ファンドの騰落率は、分配金（課税前）を分配時に再投資したものとみなして修正した基準価額を基に算出しています。

基準価額の推移



※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。設定来分配金合計 110円 (10,000口あたり、課税前)

組入上位20銘柄（マザーファンド）

	銘柄	比率 [※]	銘柄	比率 [※]	
1	トヨタ自動車	3.62%	11	アドバンテスト	1.51%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	3.28%	12	伊藤忠商事	1.44%
3	日立製作所	2.39%	13	ソフトバンクグループ	1.40%
4	三井住友フィナンシャルグループ	2.31%	14	三菱電機	1.18%
5	ソニーグループ	2.24%	15	キーエンス	1.18%
6	三菱商事	1.99%	16	東京海上ホールディングス	1.18%
7	みずほフィナンシャルグループ	1.78%	17	任天堂	1.01%
8	三菱重工業	1.69%	18	信越化学工業	0.98%
9	東京エレクトロン	1.66%	19	HOYA	0.96%
10	三井物産	1.59%	20	リクルートホールディングス	0.93%

※対純資産総額比

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

- ① 主として日本株を投資対象とします。
 ② 個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行ないます。

設定来の運用実績 (2026年2月27日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定前日を10,000円として計算しています。※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

コメント (2026年2月27日現在)

当月の東京株式市場は、衆議院選挙で自民党が歴史的な大勝を収めたことを受けて、大幅高となりました。衆議院選挙で自民党が単独過半数で勝利するとの報道を織り込む形で、株価は堅調に推移して始まりました。実際の投票結果、自民党が市場予想を上回る議席数を獲得すると、株価は急伸しました。政権基盤が安定し、政策推進力が一段と高まることへの期待に加え、海外投資家の買いも押し上げ要因となり、連日で高値を更新しました。月半ばからは、AI(人工知能)の普及で既存業務が代替されるとの懸念からソフトウェア関連銘柄が売られたほか、中東の地政学的リスクも意識されて株価は下落したものの、底堅い企業業績が支えとなり大きな調整には至りませんでした。米連邦最高裁判所が相互関税などを違憲と判断しましたが、日米関税合意で定められた対米投資計画は継続するとの見方から関連銘柄が買われたほか、政府が発表した日銀審議委員の後任人事案について金融引き締めには消極的との見方から、早期の利上げ観測が後退したことも株価を押し上げ、TOPIX、日経平均株価ともに終値で史上最高値を更新して月を終えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当込)が+10.47%、日経平均株価は+10.37%でした。※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

ポートフォリオの状況 (マザーファンド・ベース)

資産別組入状況		市場別組入状況		組入上位5業種	
株式	98.0%	東証プライム	97.0%	電気機器	21.2%
新株予約権証券(ワラント)	-	東証スタンダード	0.8%	銀行業	13.2%
投資信託・投資証券	-	東証グロース	0.2%	建設業	7.3%
現金・その他	2.0%	その他市場	-	輸送用機器	7.3%
				卸売業	6.4%

(対純資産総額比率)

- * 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。
 * 業種は東証33業種に準じて表示しています。
 * 未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、ファンドの推奨(有価証券の勧誘)を目的としたものではありません。本資料に記載の内容は将来の運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、厳密な意味での正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。上記情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

商品概要	
形態	追加型投信／国内／株式
投資対象	わが国の株式等
設定日	2001年10月29日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2026年2月27日現在)						
	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	12.02%	17.96%	30.41%	52.50%	89.16%	510.85%
ベンチマーク	10.47%	16.77%	29.52%	50.49%	112.51%	470.01%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

※ベンチマーク：TOPIX(配当込)

* TOPIX(配当込)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに投資対象としての可能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されており、配当を考慮したものです。

* 東証株価指数(TOPIX) (以下「TOPIX」という。)の指数値及びTOPIXに係る標準又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標準又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)	
第20期(2021.11.30)	0円
第21期(2022.11.30)	0円
第22期(2023.11.30)	0円
第23期(2024.12.02)	0円
第24期(2025.12.01)	0円

純資産総額	16.8 億円	(2026年2月27日現在)
-------	---------	----------------

組入上位10銘柄 (マザーファンド・ベース) (2026年1月30日現在)

	銘柄	業種	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	5.5%
2	日立製作所	電気機器	5.1%
3	トヨタ自動車	輸送用機器	3.7%
4	伊藤忠商事	卸売業	3.2%
5	ソニーグループ	電気機器	3.0%
6	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	3.0%
7	横浜フィナンシャルグループ	銀行業	2.3%
8	きんでん	建設業	2.3%
9	三井物産	卸売業	2.1%
10	大成建設	建設業	2.0%

(組入銘柄数：180)

上位10銘柄合計 32.3%

(対純資産総額比率)

基準日：2026年2月27日 適格機関投資家専用・ダイワ・バリュー株・オープンVA2(愛称:底力VA2) Monthly Fund Report
 回次コード：2024

特色		概要	
わが国の上場株式の中から、取得時にPER、PBR等の指標または株価水準からみて割安と判断され、今後株価の上昇が期待される銘柄に投資します。当ファンドは、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)をベンチマークとして長期的に同指数を上回る投資成果をめざします。ファミリーファンド方式により運用を行います。		当初設定日	2002年9月24日
		償還日	無期限
		決算日	3月9日
		受託銀行	三井住友信託銀行
投資制限	株式:制限なし、外貨建資産:不可	運用管理費用	純資産総額に対して年率1.309%

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

＜基準価額・純資産の推移＞

2026年2月27日時点

基準価額	69,350円
純資産総額	4.52億円

期間別騰落率

期間	ファンド	ベンチマーク
1カ月間	+14.3%	+10.5%
3カ月間	+25.0%	+16.8%
6カ月間	+43.1%	+29.5%
1年間	+70.1%	+50.5%
3年間	+161.4%	+112.5%
5年間	+210.2%	+138.4%
年初来	+22.9%	+15.6%
設定来	+593.5%	+573.4%

当初設定日(2002年9月24日)～2026年2月27日



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています。
 ※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しております。
 ※当ファンドは東証株価指数(TOPIX)(配当込み)をベンチマークとしておりますが、同指数を上回る運用成果を保証するものではありません。
 ※グラフ上のベンチマークは、グラフの起点時の基準価額に基づき指数化しています。

＜分配の推移＞

(1万口当たり、税引前)

決算期(年.月)	分配金
第1～17期	合計: 0円
第18期	(20.03) 0円
第19期	(21.03) 0円
第20期	(22.03) 0円
第21期	(23.03) 0円
第22期	(24.03) 0円
第23期	(25.03) 0円
分配金合計額	設定来: 0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。
 ※先物の建玉がある場合は、資産別構成の比率合計額を表示していません。

＜主要な資産の状況＞

※比率は、純資産総額に対するものです。

資産別構成			国内株式 業種別構成	
資産	銘柄数	比率	東証33業種名	比率
国内株式	114	96.4%	銀行業	14.0%
国内株式先物	1	1.0%	電気機器	10.3%
不動産投資信託等	---	---	輸送用機器	9.0%
コール・ローン、その他	---	3.6%	機械	8.3%
合計	115	---	卸売業	6.9%
国内株式 市場・上場別構成	合計96.4%		建設業	6.6%
東証プライム市場	96.1%		非鉄金属	6.5%
東証スタンダード市場	0.3%		化学	5.3%
東証グロース市場	---		不動産業	4.6%
地方市場・その他	---		その他	25.1%
組入上位10銘柄			合計33.7%	

銘柄名	東証33業種名	比率
三井住友フィナンシャルG	銀行業	4.7%
トヨタ自動車	輸送用機器	4.5%
三菱UFJフィナンシャルG	銀行業	4.2%
住友電工	非鉄金属	4.0%
小松製作所	機械	4.0%
丸紅	卸売業	2.6%
三井物産	卸売業	2.6%
東京海上HD	保険業	2.4%
鹿島建設	建設業	2.3%
三菱地所	不動産業	2.3%

ファンドマネージャーのコメント

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【株式市況】2月の国内株式市場は上昇しました。衆議院議員選挙で与党が300議席超を獲得するとの観測報道が好感され、上昇して始まりました。実際、自民党が大勝し、政権基盤の安定を背景に高市首相の政策推進力が高まるとの期待から、月半ばにかけて上昇基調を維持しました。その後、AI(人工知能)が既存企業の業務を奪うとの「AI脅威論」が懸念され、軟調に推移する局面もみられました。懸念がやや後退する中、月末にかけては堅調に推移しました。
 【運用経過】ポートフォリオの構築に際しては、日米の政策動向を勘案しつつ、今後の業績回復や好調な業績の継続性などに注目して銘柄を入れ替えました。また、自己株式の取得や配当金の増額などの株主還元を通じて、資本効率の改善が期待される銘柄に注目しました。具体的には、事業構造改革に取り組み、資本効率の改善が期待される機械関連株や、米国の関税影響の不透明感が後退し、次期以降の業績回復が期待される自動車関連株などのウエートを引き上げたほか、株主還元余力を考慮して、電力関連株の入れ替えを行いました。一方で、株価上昇によって割安感が低下した半導体関連株や電子部品関連株、生成AIによって事業機会の縮小が懸念されたシステム関連株などのウエートを引き下げました。このような売買や株価変動により、業種構成では機械、電気・ガス業、不動産業などの比率が上昇し、電気機器、情報・通信業、化学などの比率が低下しました。

■当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

ファンド名：外国株式インデックスファンドVA

作成基準日：2026年2月27日

ファンドの特色

- 運用方針
 - ・ 日本を除く世界の主要国に分散投資を行い、MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）※と連動する投資成果を目標として運用を行います。
 - ・ 株式の実質投資割合は、原則として高位（90%以上）とします。
 - ・ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、エクスポージャーの調整等を目的として為替予約取引等を活用する場合があります。
 - ・ ただし、資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記のような運用が行われない場合もあります。
 - ・ ファミリーファンド方式で運用します。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（外国株式インデックスファンドVA）とし、その資金をマザーファンド（外国株式マザーファンド）に投資して、実質的な運用はマザーファンドで行う仕組みです。
- 投資対象等
 - ・ 日本を除く世界の主要国の株式に投資する「外国株式マザーファンド」
- ベンチマーク
 - ・ MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）

(※) MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した日本を除く世界の主要国の株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。「円換算ベース」は、米ドルベース指数をもとに、当社が独自に円換算した指数です。
MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.はMSCIコクサイ・インデックスの内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

信託財産（マザーファンド）の構成

● 資産構成比

株式比率	100.2%
うち現物株式	97.4%
うち先物株式	2.7%
コール・その他	2.6%

※対純資産総額比

● 組入銘柄数 1,139銘柄

組入上位10カ国（マザーファンド）

	国	比率※	ベンチマーク構成比
1	米国	75.16%	74.69%
2	英国	4.16%	4.19%
3	カナダ	3.79%	3.79%
4	フランス	2.87%	2.90%
5	スイス	2.63%	2.67%
6	ドイツ	2.58%	2.59%
7	オーストラリア	1.85%	1.87%
8	オランダ	1.42%	1.48%
9	スペイン	1.07%	1.06%
10	スウェーデン	0.94%	1.05%

※対現物株式評価額比

注)資料中、株式には投資信託等を含めております。

設定・運用は、三井住友トラスト・アセットマネジメント (<https://www.smtam.jp/>)

ファンドの状況

● 基準価額等

		前月末比
基準価額	114,219円	+1,641円
解約価額	114,219円	+1,641円
純資産総額	2,011百万円	+27百万円

(注)純資産総額は百万円未満四捨五入

● 資産構成

外国株式マザーファンドに100%投資

基準価額の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
ファンド	1.46%	3.27%	14.86%	26.35%	96.96%	159.16%	365.69%	1052.03%
ベンチマーク	1.55%	3.48%	15.36%	27.45%	102.53%	170.81%	412.29%	1367.56%
超過収益率	-0.10%	-0.22%	-0.49%	-1.10%	-5.57%	-11.65%	-46.60%	-315.52%

(注1)ベンチマークの騰落率は、ファンドの評価と基準を同一にするため、基準価額を算出する前営業日のMSCIコクサイ指数を基に当社で計算したものです。

(注2)ファンドの基準価額を算出する際の為替レートは投資信託協会所定のものを使用しています。

基準価額の推移



※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、設定来分配金合計 150円あるいは分配金が支払われない場合があります。(10,000口あたり、課税前)

組入上位10銘柄（マザーファンド）

	銘柄	国	比率※
1	NVIDIA CORP	米国	5.45%
2	APPLE INC	米国	4.91%
3	MICROSOFT CORP	米国	3.44%
4	AMAZON.COM	米国	2.42%
5	ALPHABET INC-CL A	米国	2.17%
6	ALPHABET INC-CL C	米国	1.82%
7	BROADCOM INC	米国	1.75%
8	META PLATFORMS INC-CLASS A	米国	1.73%
9	TESLA INC	米国	1.40%
10	JPMORGAN CHASE & CO	米国	1.02%

※対純資産総額比

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

運用会社：アライアンス・バーンスタイン株式会社

作成基準日：2026年2月27日

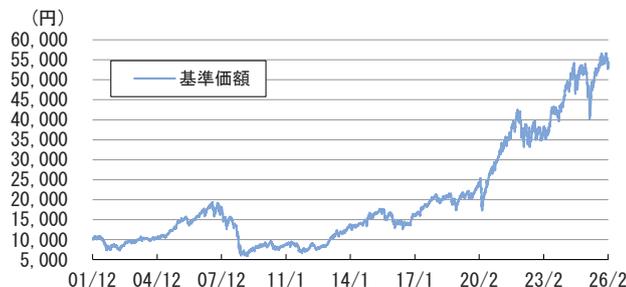
投資対象

アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンドへの投資を通じて、世界各国(日本を含む)の株式市場に分散投資します。

基準価額の推移と運用実績

基準価額の推移

(1万口当たり)



基準価額／純資産総額

基準価額	純資産総額
54,533円	2億13百万円

基準価額騰落率

	1か月間	3か月間	6か月間	1年間	3年間	当初設定来*
ファンド	-0.7%	-1.5%	3.5%	12.3%	45.7%	445.3%
参考指標	1.9%	4.0%	15.9%	27.8%	100.2%	800.8%
円/米ドルレート	1.4%	-0.5%	6.1%	4.1%	14.3%	26.4%

*当初設定日：2001年12月3日

※参考指標はMSCIワールド・インデックス(配当込み、円ベース)です。
 ※基準価額およびその騰落率は、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資家の皆様の実際の投資成果を示すものではありません。また、データは過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

マザーファンドのポートフォリオの状況

※組入比率は、全て対純資産総額の比率です。

セクター別配分

セクター	比率	セクター	比率
情報技術	31.4%	一般消費財・サービス	1.0%
資本財・サービス	20.9%	現金等	6.7%
金融	14.4%		
ヘルスケア	13.3%		
公益事業	6.4%		
素材	2.1%		
コミュニケーション・サービス	1.9%		
エネルギー	1.8%		
合計	100.0%		

国別配分

国	比率	国	比率
アメリカ	51.8%	イタリア	2.8%
イギリス	7.6%	香港	2.2%
ブラジル	4.7%	その他の国	7.3%
カナダ	3.6%	現金等	6.7%
台湾	3.6%		
韓国	3.4%		
スイス	3.2%		
日本	3.1%		
合計	100.0%		

資産配分

株式等	比率
(内訳) 国内株式	3.1%
外国株式	90.2%
現金その他	6.7%

※小数点第2位以下を四捨五入しています。

※セクター別配分は、MSCI/S&PのGlobal Industry Classification Standard(GICS)の分類で区分しています。

※国別配分は、発行体の国籍や事業基盤等を考慮して区分しています。

※組入上位10銘柄は、当ファンドの運用内容の説明のためのものであり、アライアンス・バーンスタイン株式会社が推奨または取得のお申込みの勧誘を行うものではありません。

組入上位10銘柄

(銘柄数：49銘柄)

順位	銘柄名	セクター	国	比率
1	アップル	情報技術	アメリカ	4.6%
2	台湾セミコンダクター	情報技術	台湾	3.6%
3	サンパウロ州基礎衛生公社	公益事業	ブラジル	3.5%
4	サムスン電子	情報技術	韓国	3.4%
5	ステリス	ヘルスケア	アメリカ	3.0%
6	ウエイスト・マネジメント	資本財・サービス	アメリカ	3.0%
7	エヌビディア	情報技術	アメリカ	3.0%
8	ネクステラ・エナジー	公益事業	アメリカ	2.8%
9	マイクロソフト	情報技術	アメリカ	2.8%
10	VISA	金融	アメリカ	2.5%
(組入上位10銘柄計)				32.2%

市況

2026年2月の世界の株式市場は、上昇しました(米ドルベース)。

米国株式市場は不安定な展開となり、前月末比で下落しました。月初は、予想を上回る1月のISM製造業景況指数は好感されたものの、人工知能(AI)スタートアップ企業による新ツール発表を受けて、事業モデルが脅かされるとの懸念からソフトウェア銘柄への売りが膨らみ、下落しました。その後、押し目買いから反発したものの、AI脅威論が払しょくされず再び下落しました。月後半は、堅調な経済指標を背景に米国景気の底堅さが意識されて上昇しましたが、米国とイランの軍事的緊張が高まり軟調となる場面もありました。月末にかけては、半導体やIT関連企業の好調な業績を背景にAIを巡る楽観的な見方が再燃し上昇しました。欧州株式市場は、前月末比で上昇しました。米国の新たな関税措置に対する懸念が市場を圧迫する場面もありましたが、好調な企業業績や経済指標の改善が投資家心理を支えました。欧州中央銀行(ECB)の政策見通しに大きな変化はなく、インフレ率や成長率の改善が市場に安心感を与え、全体として堅調な動きを維持しました。日本株式市場は、前月末比で上昇しました。上旬は衆議院議員選挙で自民党が歴史的勝利を収めたことから、安定した政権運営への期待が高まり、大きく上昇しました。その後は、短期的な過熱感に対する反動や日銀の利上げ観測後退による銀行株の売りなどから、やや軟調な展開となりました。月末にかけては、米国ハイテク株高や円安進行を背景に持ち直し、東証株価指数(TOPIX)、日経平均株価ともに最高値を更新しました。

為替市場では、米ドル円は円安米ドル高となり、2026年2月27日の基準価額の算定に使用するレートは1米ドル=155円81銭(2026年1月30日:153円66銭)となりました。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

ファンド名：外国債券インデックスファンドVA

作成基準日： 2026年2月27日

ファンドの特色

- 運用方針
 - ・ FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）※に採用されている国の国債等に分散投資を行い、同指数と連動する投資成果を目標として運用を行います。
 - ・ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。ただし、エクスポージャーの調整等を目的として為替予約取引等を活用する場合があります。
 - ・ ただし、資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記のような運用が行われない場合もあります。
 - ・ ファミリーファンド方式で運用します。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（外国債券インデックスファンドVA）とし、その資金をマザーファンド（外国債券マザーファンド）に投資して、実質的な運用はマザーファンドで行う仕組みです。
- 投資対象等
 - ・ 日本を除く世界の主要国の公社債に投資する「外国債券マザーファンド」
- ベンチマーク
 - ・ FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

※FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性及び完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏又は遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

信託財産（マザーファンド）の構成

● 資産構成比

外国債券	99.5%
うち現物	99.0%
うち先物	0.5%
コール・その他	1.0%

※対純資産総額比

- 組入銘柄数 927銘柄
- 修正デュレーション ファンド 6.23
ベンチマーク 6.32

組入上位10カ国（マザーファンド）

	発行国	比率※	ベンチマーク構成比
1	米国	45.23%	45.29%
2	中国	12.01%	11.92%
3	フランス	7.33%	7.28%
4	イタリア	6.75%	6.71%
5	英国	5.81%	5.87%
6	ドイツ	5.71%	5.75%
7	スペイン	4.42%	4.35%
8	カナダ	2.12%	2.12%
9	ベルギー	1.55%	1.56%
10	オーストラリア	1.33%	1.34%

※組入債券を100としたときの構成比です。

設定・運用は、三井住友トラスト・アセットマネジメント (<https://www.smtam.jp/>)

ファンドの状況

● 基準価額等		前月末比
基準価額	24,285円	+532円
解約価額	24,285円	+532円
純資産総額	781百万円	+13百万円

(注) 純資産総額は百万円未満四捨五入

● 資産構成

外国債券マザーファンドに100%投資

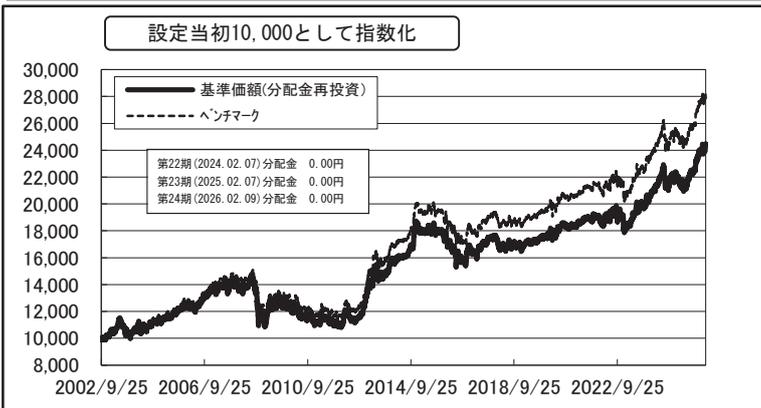
基準価額の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
ファンド	2.24%	1.73%	9.78%	13.82%	31.95%	33.76%	43.68%	144.17%
ベンチマーク	3.06%	2.28%	10.35%	14.38%	34.95%	37.47%	52.71%	182.67%
超過収益率	-0.82%	-0.55%	-0.56%	-0.56%	-3.01%	-3.72%	-9.03%	-38.51%

(注1) ベンチマークの騰落率は、ファンドの評価と基準を同一にするため、基準価額を算出する前営業日のFTSE世界国債インデックスにもとづき当社にて計算したものです。

(注2) ファンドの基準価額を算出する際の為替レートは投資信託協会所定のものを使用していますが、ベンチマークの為替レートはWMR Closing Spot Rates(対USDドル)を使用しています。

基準価額の推移



※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。 設定来分配金合計 80円 (10,000口あたり、課税前)

組入上位10銘柄（マザーファンド）

	銘柄	クーポン	償還日	比率※
1	米国国債	1.375%	2031/11/15	0.81%
2	米国国債	4.125%	2027/2/15	0.75%
3	米国国債	0.625%	2030/8/15	0.61%
4	米国国債	4.375%	2034/5/15	0.57%
5	米国国債	0.500%	2027/5/31	0.54%
6	米国国債	4.500%	2033/11/15	0.50%
7	米国国債	0.625%	2030/5/15	0.50%
8	米国国債	2.875%	2032/5/15	0.49%
9	米国国債	4.000%	2034/2/15	0.49%
10	米国国債	0.500%	2027/10/31	0.49%

※組入債券を100としたときの構成比です。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

ベアリング 外国債券 ファンド VA2 (適格機関投資家専用)

BARINGS

設定：ベアリングス・ジャパン株式会社

作成基準日：2026年02月27日

ファンドの特徴：

- 安定したインカム（利子等収益）の確保と中長期的な信託財産の成長を目指す。
- FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）をベンチマークとし、これを上回る運用成績を目指す。
- マザーファンドを通じて日本を除く先進国の国債を中心に分散投資を行います。
- 円に対する為替ヘッジは原則として行いません。

《基準価額》

	2026/1/30	2026/2/27
基準価額	25,880円	26,513円

基準価額は信託報酬（年率0.748%（税込）、0.68%（税抜））控除後のものです。（以下同じ。）

《ポートフォリオ特性》

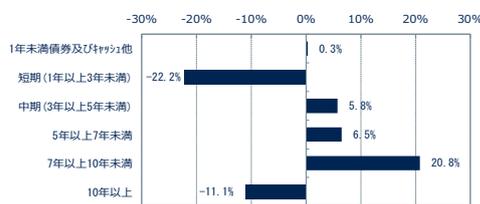
	当投資信託	ベンチマーク	対比
平均残存期間(年)	7.27	8.86	-1.59
修正デュレーション(年)	6.23	6.34	-0.11

《組入通貨別配分比率》

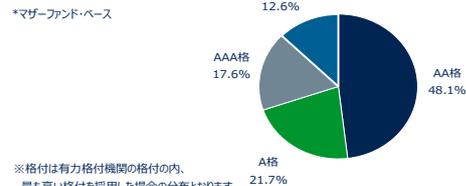
通貨名	当投資信託		ベンチマーク	対比
	為替ヘッジ前	為替ヘッジ後		
米ドル	34.9%	45.2%	45.3%	▲0.1%
カナダドル	4.2%	2.1%	2.1%	0.0%
オーストラリアドル	1.4%	2.2%	1.3%	0.9%
ニュージーランドドル	2.0%	0.3%	0.3%	0.0%
シンガポールドル	2.2%	0.4%	0.4%	0.0%
ドル圏小計	44.7%	50.3%	49.5%	0.8%
ユーロ	34.4%	29.5%	29.6%	▲0.1%
英ポンド	11.0%	5.2%	5.9%	▲0.7%
デンマーククローネ	0.0%	0.0%	0.2%	▲0.2%
スウェーデンクローネ	0.2%	0.4%	0.2%	0.2%
スイスフラン	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ノルウェークローネ	0.2%	0.8%	0.2%	0.6%
豪ドル	0.5%	0.7%	0.8%	▲0.1%
欧州圏小計	46.2%	36.6%	36.7%	▲0.1%
イスラエルシェケル	0.0%	0.0%	0.4%	▲0.4%
メキシコペソ	3.0%	1.0%	1.0%	▲0.0%
人民元	5.9%	12.0%	11.9%	0.1%
アラブ首長国ディラハム	0.0%	0.0%	0.5%	▲0.5%
その他小計	9.0%	13.0%	13.8%	▲0.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%

*日本円の部分には為替評価損益を含みます。

《対ベンチマーク残存年分布比較》



《格別分布》



※格別は有力格付機関の格付の内、最も高い格付を採用した場合の分布となります。格別は当資料作成基準日現在の格付を使用。

当資料は、ベアリングス・ジャパン株式会社（金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第396号、一般社団法人日本投資顧問業協会会員、一般社団法人投資信託協会会員）（以下、「当社」）が、ベアリング外国債券ファンドVA2（適格機関投資家専用）の運用状況に関する情報提供を目的に作成した資料で、法令に基づく開示書類あるいは動向に関する資料ではありません。当資料は、当社が信頼できる情報源から得た情報等に基づき作成していますが、内容の正確性あるいは完全性を保証するものではありません。当資料に掲載した運用状況に関するグラフ、数値その他の情報は過去の一時点のものであり、将来の運用成果等を予測あるいは保証するものではありません。

Date Compiled：2018年1月11日、東京 Ref No. I20181Q03

《当投資信託の騰落率》

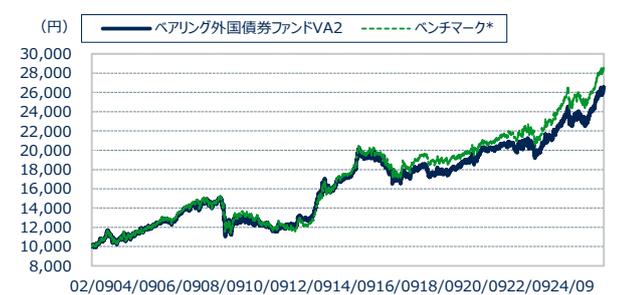
	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
基準価額	2.45%	1.80%	9.79%	14.96%	33.61%	165.13%
ベンチマーク	2.36%	1.92%	10.23%	14.42%	34.58%	186.14%
差	0.09%	-0.12%	-0.44%	0.54%	-0.97%	-21.01%

*ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス（除く日本）の前期（土、日等を除く）の円ベースの数値をファンドで採用している為替レート（東京外国為替市場ドル円仲値）で円換算しており、ファンドの基準価額算出方式に合わせています。

《マザーファンドの当期末及び過去4四半期の純資産残高推移》

	2025/03	2025/06	2025/09	2025/12	2026/02
純資産総額	17,819	16,774	16,840	18,209	18,729

《設定来基準価額（税引前分配金込）とベンチマークの推移》



*ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として指数化して表示しています。

《組入上位10銘柄》

順位	銘柄	通貨	割合 (%)	償還日	格付※	比率
1	米国国債	USD	4.00%	2034/02/15	AA+/Aa1	11.52%
2	英国国債	GBP	0.25%	2031/07/31	AA/Aa3	9.03%
3	米国国債	USD	0.87%	2030/11/15	AA+/Aa1	6.93%
4	スペイン国債	Euro	3.55%	2033/10/31	A+/Aa3	5.31%
5	イタリア国債	Euro	1.65%	2032/03/01	BBB+/Baa2	4.84%
6	スペイン国債	Euro	1.25%	2030/10/31	A+/Aa3	4.77%
7	欧州連合	Euro	3.00%	2034/12/04	AA+/Aaa	4.19%
8	米国国債	USD	4.25%	2035/05/15	AA+/Aa1	4.04%
9	オランダ国債	Euro	0.50%	2032/07/15	AAA/Aaa	3.48%
10	イタリア国債	Euro	1.65%	2030/12/01	BBB+/Baa2	3.12%

※格付はS&P/ Moody'sの格付となります。

市場動向

2月の債券市場は、月前半はソフトウェア株の急落やインフレ情勢悪化がもたらしたリスクオフにより、安全資産として米国債の需要が高まり、米金利は低下しました。月後半は米連邦最高裁が一部関税を無効と判断したものの、トランプ大統領がすぐさま追加関税に動き、通商政策の不透明感が高まったことから、米金利は低下しました。欧州では、インフレの不振が意識され、金利は低下しました。

通貨市場では、円は高市首相が植田総裁に対して追加利上げに難色を示したとの報道や次期日銀審議委員にリフレ派2人を指名したことから、対米ドルで下落しました。ユーロは対米ドルで下落した一方、対円では上昇しました。

運用状況

デュレーションは、地政学リスクや関税政策の不透明感の高まりを受け、金利リスクを抑制し、月末時点でベンチマーク程度としました。債券市場配分では、NZの国債等から、カナダ、メキシコ、英国の国債等に入れ替え、月末時点の主なポジションは、英国、ユーロ圏、カナダ、メキシコ等をオーバーウェイト、米国、中国等をアンダーウェイトとしました。物価運動債の組入れは、米国で維持しました。通貨配分では、スウェーデンクローナのオーバーウェイト幅を縮小する一方、ユーロをアンダーウェイトからほぼ中立に転換し、月末時点の主なポジションは、豪ドル、ノルウェークローネ、スウェーデンクローナ等をオーバーウェイト、英ポンド等をアンダーウェイトとしました。

今後の見通し

トランプ大統領の就任から約1年が経過し、不確実性への耐性をつけた市場は経済の楽観論に傾くものの、米国の関税政策や米中対立等をめぐる不確実性の残存、先進国に共通する少子高齢化や外需依存といった構造問題により、経済回復には時間を要すると予想します。引き続き、外的なショックに弱い開放小国で金利低下が期待できると見るものの、累積的な利下げ効果を受けた景気や労働市場の回復具合を注視することが重要と想定します。機動的なリスク管理、分散投資を施し、収益獲得を目指します。通貨配分では、主なポジションとして、豪ドル、ノルウェークローネ、スウェーデンクローナ等をオーバーウェイト、英ポンド等をアンダーウェイトとする方針です。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

グローバル・ソブリン・オープン VA2

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

基準日：2026年2月27日

■基準価額および純資産総額の推移



■純資産総額【右目盛】

■基準価額【左目盛】

■基準価額(分配金再投資)【左目盛】

・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
 ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したもものとして計算しています。
 ・ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス(円ベース、日本を含む)です。
 ・ベンチマークは、設定日を10,000として指数化しています。

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	2.4%	2.0%	9.5%	13.0%	26.4%	95.4%
ベンチマーク	2.9%	1.9%	9.1%	12.2%	28.9%	117.5%

・実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。
 ・また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
 ・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。
 ・分配金実績がある場合は、分配金(税引前)を再投資したもものとして計算しています。

■組入上位10銘柄

銘柄	通貨	組入銘柄数: 102銘柄			比率
		クーポン	残存年数	比率	
1 アメリカ国債	米ドル	3.1250%	18.5年	3.7%	
2 スペイン国債	ユーロ	3.5500%	7.7年	3.2%	
3 フランス国債	ユーロ	2.0000%	6.7年	3.2%	
4 アメリカ国債	米ドル	4.1250%	27.5年	3.1%	
5 ドイツ国債	ユーロ	2.5000%	6.7年	3.0%	
6 フランス国債	ユーロ	2.7500%	4.0年	3.0%	
7 アメリカ国債	米ドル	4.1250%	4.5年	2.9%	
8 アメリカ国債	米ドル	4.0000%	3.7年	2.9%	
9 アメリカ国債	米ドル	4.2500%	9.5年	2.9%	
10 アメリカ国債	米ドル	4.0000%	3.4年	2.9%	

■運用担当者コメント

<投資環境>

債券市場では、主要国の長期金利は低下しました。米国では、インフレ率が市場予想を下回ったことや、個人消費の軟調な動向を受けて、長期金利は低下しました。ユーロ圏では、インフレ率が市場予想を下回ったことやグローバルに金利が低下したことなどから、ドイツの長期金利は低下しました。英国では、インフレ率の低下を背景に利下げ期待が高まり、長期金利は低下しました。

為替市場では、主要国の通貨は円に対してまちまちな動きとなりました。米ドルは、日本の衆議院選挙で自民党が大勝したことを受け、高市政権による積極財政や金融緩和策が継続されるとの思惑から、円に対して上昇しました。ユーロは、堅調なドイツの製造業関連の受注状況などから、欧州景気の回復期待が高まり、円に対して上昇しました。英ポンドは、インフレ率の低下により利下げ期待が高まり、円に対して下落しました。

<今後の運用方針>

債券戦略では、財政悪化への懸念から超長期債の保有を少なめとし、満期が5年から10年程度の国債の保有比率を高めとします。また、ユーロ圏では相対的に金利水準の高いフランス国債などを多めに保有することで、ポートフォリオのインカム向上を目指します。

為替戦略では、景気回復が見込まれる欧州圏や相対的に金利水準の高いメキシコなどの通貨を分散して保有し、中国元の保有を少なめとしています。(運用主担当者：樋口 達也)

■基準価額および純資産総額

基準価額(1万口当たり)	19,333円
前月末比	+445円
純資産総額	1.98億円

■分配金実績(1万口当たり、税引前)

決算期	決算日	分配金
第23期	2026/02/17	0円
第22期	2025/02/17	0円
第21期	2024/02/19	0円
第20期	2023/02/17	0円
第19期	2022/02/17	0円
第18期	2021/02/17	0円
設定来累計		120円

■資産構成

	比率
債券	97.6%
内 現物	97.6%
内 先物	0.0%
コールローン他	2.4%

■ポートフォリオ特性

	当月末	ベンチマーク
最終利回り	3.6%	3.3%
デュレーション	7.0	6.5
平均残存年数	9.2年	9.3年

■組入通貨

通貨	比率
1 米ドル	38.4%
2 ユーロ	29.1%
3 英ポンド	6.5%
4 日本円	6.0%
その他	20.1%

・為替予約等を含めた実質的な比率です。

■残存期間別組入比率

残存期間	比率
3年未満	8.2%
3～5年	23.7%
5～7年	23.3%
7～10年	22.3%
10年以上	22.5%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。・騰落率は年率換算していません。ベンチマークは基準価額との関連を考慮して、前営業日の値を用いています。・FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数のデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。・上記のベンチマークは、FTSE世界国債インデックス・データ(出所:Bloomberg)に基づき、設定日(2003年6月30日)の値を10,000として三菱UFJアセットマネジメントが指数化し計算したものです。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

ファンド名：バランスVA50

作成基準日：2026年2月27日

ファンドの特色

- ① 主として、日本株式マザーファンド、日本債券マザーファンド、外国株式マザーファンドおよび外国債券マザーファンドに投資し、内外の株式・公社債への分散投資をすることにより長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
- ② 基本配分比率は国内株式25%、国内債券25%、外国株式25%、外国債券25%とします。
- ③ 上記の基本配分比率には各資産毎に一定の変動許容幅を設けます。また、市況動向等の変化に応じて当該基本配分比率の見直しを行う場合があります。
- ④ 実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対しては原則為替ヘッジを行いません。ただし、運用効率の向上を図るため、為替予約取引等を活用する場合があります。
- ⑤ 運用の効率化を図るため、株価指数先物取引および債券先物取引等を活用することがあります。このため、株式および債券の組入総額と株価指数先物取引および債券先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。

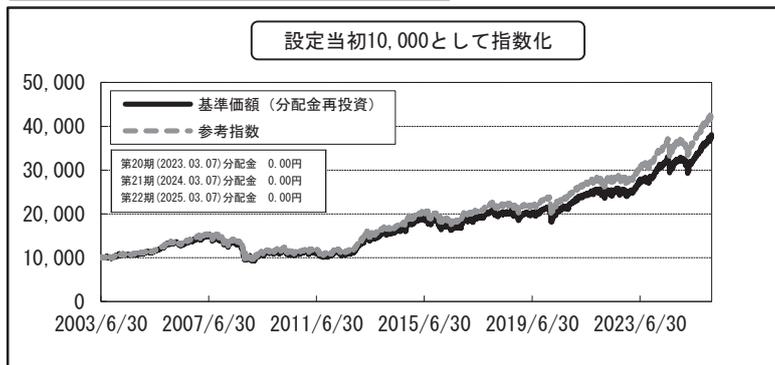
基準価額の騰落率

ファンド設定日：2003/06/30

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	+3.93%	+5.10%	+12.68%	+20.44%	+51.16%	+280.78%
参考指数	+4.13%	+5.25%	+12.86%	+20.64%	+52.68%	+329.97%
差	-0.20%	-0.15%	-0.18%	-0.21%	-1.53%	-49.20%

(注) 参考指数は、当ファンドが組入れている各資産(マザーファンド)のベンチマーク収益率に、各基本資産配分比率を乗じて当社にて算出したものです。

基準価額の推移(当ファンド)

設定来分配金合計 100円
(10,000口あたり、課税前)

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

ファンドの状況

●基準価額等

		前月末比
基準価額	37,807円	+1,429円
解約価額	37,807円	+1,429円
純資産総額	3,157百万円	+79百万円

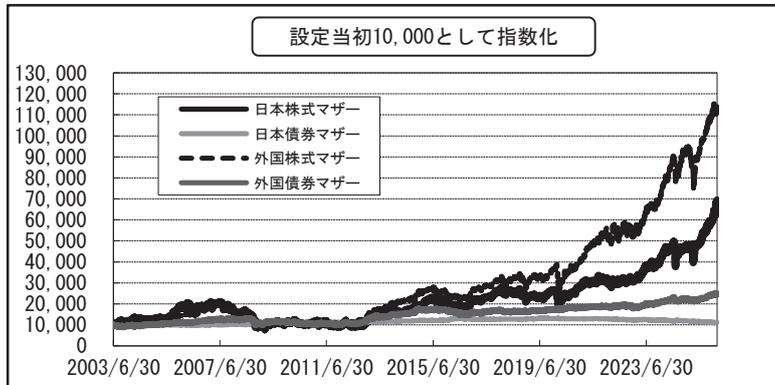
※純資産総額は百万円未満四捨五入

信託財産の構成

	基準日現在	目標資産配分	差異
日本株式マザー	26.4%	25.0%	1.4%
日本債券マザー	23.7%	25.0%	-1.3%
外国株式マザー	25.3%	25.0%	0.3%
外国債券マザー	24.5%	25.0%	-0.5%
コール他	0.1%	0.0%	0.1%
合計	100.0%	100.0%	0.0%

(注) 投資信託純資産総額比

【ご参考】マザーファンドの推移



◇ 2月の市場動向

【日本株式】 国内株式市場は大幅に上昇しました。月前半は、衆議院選挙で自民党が大勝し、高市首相の積極財政による景気拡大や成長戦略の具体化に向けた動きへの期待が背景となって上昇しました。月後半は、第二次高市内閣が発足し、安定した政治基盤のもとで経済政策を進められるとの見方や、日銀の審議委員人事案の発表を好感して上昇し、日経平均株価、TOPIXともに史上最高値を更新しました。

【日本債券】 国内債券市場では10年国債利回りが2.110%に低下(価格は上昇)しました。衆議院選挙で自民党が歴史的な大勝を収めた一方で、為替市場への配慮などから過度な積極財政はおこなわないとの見方が広がり、利回りは低下しました。高市首相が日銀の追加利上げに難色を示したとの報道などから、日銀の早期利上げ観測が後退しました。

【外国株式】 米国株式市場は下落しました。米経済指標が市場予想を下回ったことや、AI(人工知能)による代替懸念からソフトウェア関連株が売られ、下落しました。その後、押し目買いにより反発する場面もありましたが、イラン情勢の緊迫化によるリスク回避姿勢が強まり、月間では下落しました。欧州株式市場は上昇しました。好決算銘柄や英国の利下げ観測を背景に上昇しました。また、イラン情勢の緊迫化から鉱業株や防衛関連株が上昇しました。

【外国債券】 米国10年国債利回りは、3.938%に低下(価格は上昇)しました。次期FRB(米連邦準備理事会)議長にケビン・ウォーシュ氏が指名され、FRBの独立性懸念が後退したことや地政学リスクへの警戒感が米国債の買いに繋がりを、利回りは低下しました。ドイツ10年国債利回りは、2.643%に低下しました。米国債利回りの低下に加え、ZEW(欧州経済研究センター)景況感指数などの弱い経済指標を受けて、利回りは低下しました。

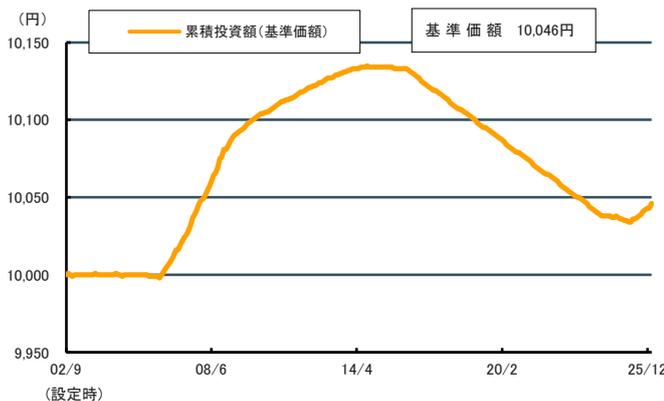
設定・運用は、三井住友トラスト・アセットマネジメント (<https://www.smtam.jp/>)

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行いません。

商品概要	
形態	追加型投信／国内／債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

設定来の運用実績 (2026年2月27日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
 ※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。
 ※基準価額は運用管理費用控除後のものです。
 ※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

純資産総額	57.7 億円	(2026年2月27日現在)
-------	---------	----------------

累積リターン (2026年2月27日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.03%	0.04%	0.08%	0.11%	-0.04%	0.46%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)

第20期(2021.11.30)	0円
第21期(2022.11.30)	0円
第22期(2023.11.30)	0円
第23期(2024.12.02)	0円
第24期(2025.12.01)	0円

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2026年1月30日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	1347国庫短期証券 2026/03/09	債券	A	32.8%
2	1343国庫短期証券 2026/02/16	債券	A	23.3%
3	1353国庫短期証券 2026/04/06	債券	A	22.4%
4	1355国庫短期証券 2026/04/13	債券	A	6.9%
5	1344国庫短期証券 2026/02/24	債券	A	4.3%
6	1348国庫短期証券 2026/03/16	債券	A	2.1%
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-

(組入銘柄数：6) 上位10銘柄合計 91.7% (対純資産総額比率)

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース) (2026年1月30日現在)

資産別組入状況

債券	91.7%
CP	-
CD	-
現金・その他	8.3%

組入資産格付内訳

長期債券格付	AAA/Aaa	-
	AA/Aa	-
	A	91.7%
短期債券格付	A-1/P-1	-
	A-2/P-2	-
現金・その他		8.3%

平均残存日数	41.68日
平均残存年数	0.11年

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。「(プラス/マイナス)」の符号は省略しています。なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、ファンドの推奨(有価証券の勧誘)を目的としたものではありません。本資料に記載の内容は将来の運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、厳密な意味での正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。上記情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。



この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

募集代理店

引受保険会社

三井住友海上プライマリー生命保険株式会社

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル

資料請求・お問い合わせ

フリーダイヤル 0120-125-104

<https://www.ms-primary.com>